

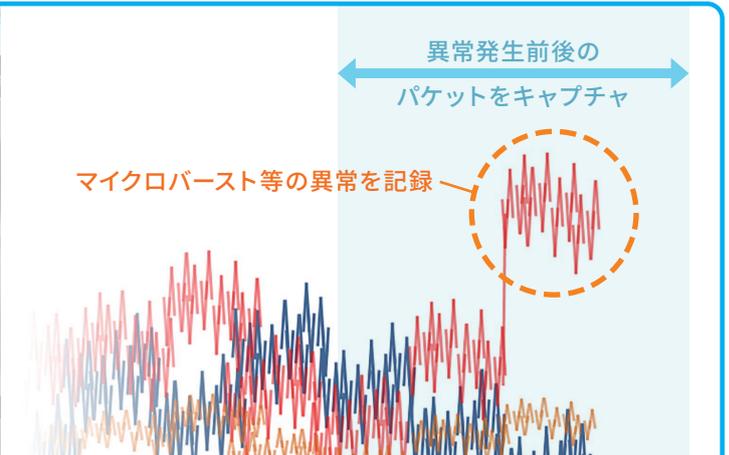


仮想NWの“ドライブレコーダー”が

トラブルの原因をスピーディに見える化します。



クルマのドライブレコーダーは  
路上トラブル発生前後の映像を記録



@FlowInspectorは  
仮想NWトラブル発生前後の状態を記録

## NTT研究所で開発されたハードウェア・アクセラレーター※により 低コスト&低負荷でリアルタイムのトラフィックキャプチャが可能に

超低遅延・超高速を特長とする5Gサービスの開始により、エンターテインメント・金融・医療など、さまざまな分野で新サービスの登場が予想されていますが、サービス提供側のネットワークがそれに見合う品質や安定性を確保できるかという課題があります。特に仮想ネットワーク環境ではパケットカプセル化の複雑化でパケットの宛先が見えず、トラブル時の原因究明が困難です。@FlowInspectorはネットワーク上のドライブレコーダーとして機能するアプリケーションで、トラブル発生時のスピーディな解析をサポートします。

※NTT研究所デバイスイノベーションセンターの開発技術  
パケット処理・フロー識別用ハードウェア・アクセラレーター

### POINT

1

リアルタイム監視機能で  
トラフィック変化が一目瞭然

複雑にカプセル化されたパケットを最大17フィールド、10,000エントリーの強力なフィルターでリアルタイムに識別し、見える化します。

### POINT

2

ドライブレコーダー機能で  
異常の前後状態を自動記録

しきい値設定によりマイクロバースト等のNW異常を検知し、その前後のパケットのみを保存することにより、ポイントを絞った解析・対処を実現します。

### POINT

3

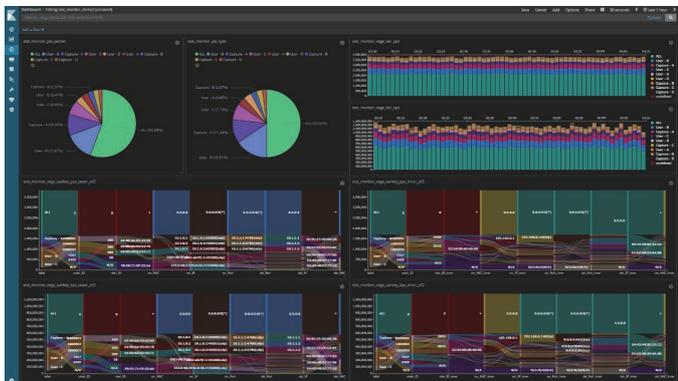
キャプチャデータを厳選して  
運用・分析コストを削減

従来はNW異常の検出・解析に大容量ストレージと膨大な解析時間を要しましたが、ドライブレコーダー機能によって迅速化と運用・分析コストを削減します。

● ハードウェア・アクセラレーター\*が高速・広帯域のトラフィックをリアルタイムに監視・記録

@FlowInspectorは、トラブル発生時でも迅速に復旧させることが重要なインフラを提供・運用している事業者様に最適なソリューションで、VLAN/VxLAN/IPv4/IPv6など、さまざまなプロトコルに対応しています。

可視化アプリケーション



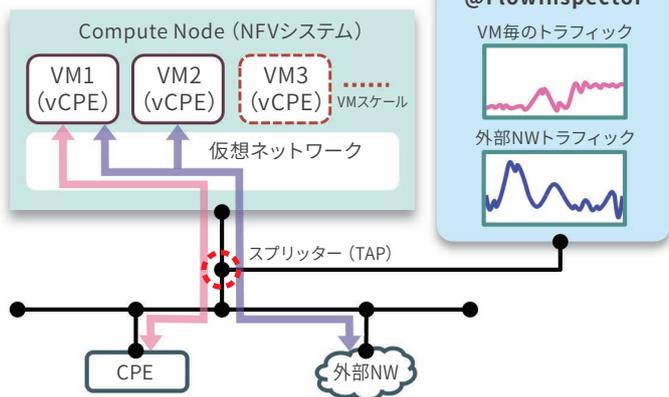
異常検知アプリケーション



\*NTT 研究所 デバイスイノベーションセンターの開発技術  
パケット処理・フロー識別用ハードウェア・アクセラレーター

主な機能

・システム利用例



- リアルタイムトラフィック識別／可視化機能
- 帯域監視（アラート）機能
- バーストトラフィック検知機能
- ドライブレコーダー型パケットキャプチャ機能
- ジッター／レイテンシー測定機能
- その他
  - ・フルワイヤーレート対応
  - ・TAPやミラーポートを用いて本製品に接続（監視対象サービスの性能を損なわない）
  - ・xFlow対応装置不要



2019年6月に開催されたInterop Tokyo 2019において Best of Show Award ファイナリストにノミネートされました。

お問い合わせ

<https://www.ntt-at.co.jp/product/flowinspector/>



※記載された社名、各製品名等は、各社の商標または登録商標です。※本カタログ記載の内容は予告なく変更することがあります。※カタログ記載内容 2019年11月現在